

各関係機関長 殿
病虫害防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成22年度農作物病虫害発生予察情報について

平成22年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成22年度農作物病虫害発生予報第1号

平成22年4月30日
徳島県

.普通作物

早期水稲

イネミズゾウムシ

1)予報内容

発生時期 平年並(前年よりやや早い)

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)4月後半の巡回調査では,発生圃場率が21.9%,本田生息虫数が0.3頭であり,ほぼ平年(16.3%,0.3頭)並の発生である。

3)防除上注意すべき事項

(1)発生状況に注意し,育苗箱施用を行っていない圃場において成虫が多発した場合には,薬剤を水面施用する。

(2)根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので,深水を避け,根を健全に保つ。

.果樹

果樹共通

果樹カメムシ類

1)予報内容

発生時期 平年並

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で,発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)前年夏~秋期における予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数は,平年よりやや少なめで推移した。

(2)1月に実施した果樹カメムシ類の調査(11地点×2ヶ所調査)では2地点で越冬を確認,越冬成虫数は0.09頭/m²であった。一昨年(越冬虫を認めず),昨年(11地点×2ヶ所の調査では2地点で越冬を確認,越冬成虫数は0.23頭/m²)と比べて越冬密度が低い。

(3)4月30日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量及び日照時間は平年並と見込まれており,やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので,園内を巡回し飛来に注意するとともに,飛来を認めたら早急に防除を行なう。

- (2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

.野菜

夏ネギ

さび病

1)予報内容

発生時期 平年並
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)4月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病株率が2.7%であり、ほぼ平年(12.4%、0.7%)並の発生である。
- (2)4月30日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。
- (2)葉全体に発生が見られてから薬剤散布を行ってもほとんど効果は見られないので、発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (3)罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので、速やかに圃場外で処分し、病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)4月後半の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、葉の被害度が7.8であり、平年(66.7%、7.8)と比べてやや発生が多い。
- (2)4月30日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

.その他

- 1)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

テレホンサービス 0883 (26) 1199
ホームページ <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予報,発生状況,防除法等をお知らせしています。